

[成果情報名]高冷地における根深ネギの周年栽培を可能とする作型と有望品種

[要約]高冷地における根深ネギの周年栽培は、春どりで「羽緑一本太」「陽春の宴」を、初夏どりで「初夏扇」を、夏どりで「大地の響き」「夏扇パワー」を、秋冬どりで「森の奏で」「夏扇パワー」を用い、新たな作型で栽培することで可能となる。

[担当] 総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・野菜作物科・岩間亮太

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

山梨県のネギの作型はこれまで「秋冬どり」が主流であったが、年間を通じた周年出荷が望まれている。そこで平坦地や高冷地で「春どり」や「夏どり」など新たな作型を確立し、県産ネギの安定供給を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 【春どり】

品種「羽緑一本太」「陽春の宴」を用い、5～6月に播種することで、翌年4月中旬～5月中旬まで収穫することができる（図1、表1）。「羽緑一本太」は4月収穫に適し、「陽春の宴」は抽だいが遅いため5月前半の収穫に適する（表1）。

2. 【初夏どり（被覆）】

品種「初夏扇」を用い、9月下旬から10月上旬に播種し、定植後に翌年3月下旬までトンネル被覆することで、6月下旬から7月に収穫することができる（図1、表1）。2月中旬頃から温度が上がりすぎないようにトンネル換気を行う。

3. 【夏どり】

品種「大地の響き」「夏扇パワー」を用い、1月に播種することで、8月から9月に収穫することができる（図1、表1）。

4. 【秋冬どり】

品種「森の奏で」「夏扇パワー」を用い、2月に播種することで10月から12月に収穫することができる（図1、表1）。「森の奏で」は耐寒性が強いいため12月中旬以降の収穫にも適する（表1）。

[成果の活用上の留意点]

1. 試験は高冷地野菜・花き振興センター（標高 747m）で行った。
2. 育苗はチェーンポット CP303 を用い、1 穴あたり 2 粒播きとした。
栽植密度は畝間 1m、株間 2.5cm の 40,000 株/10a とした。
施肥成分量は、窒素-リン酸-カリ=21-29-20kg/10a とした。
窒素、カリは基肥：追肥=3：7 とし、リン酸は 9 割を基肥とした。
3. 軟白確保のための最終の土寄せは収穫予定日より 3 週間以上前に行った。
4. 過湿に弱いため、圃場の排水対策に努める。特に夏場の冠水は病害を助長するため注意する。

[期待される効果]

1. 平坦地との標高差を活かしたリレー栽培により周年を通じた県産根深ネギの供給が可能となる。
2. 複合経営の新たな補完品目として、野菜、水稻、果樹農家が導入可能となる。

[具体的データ]

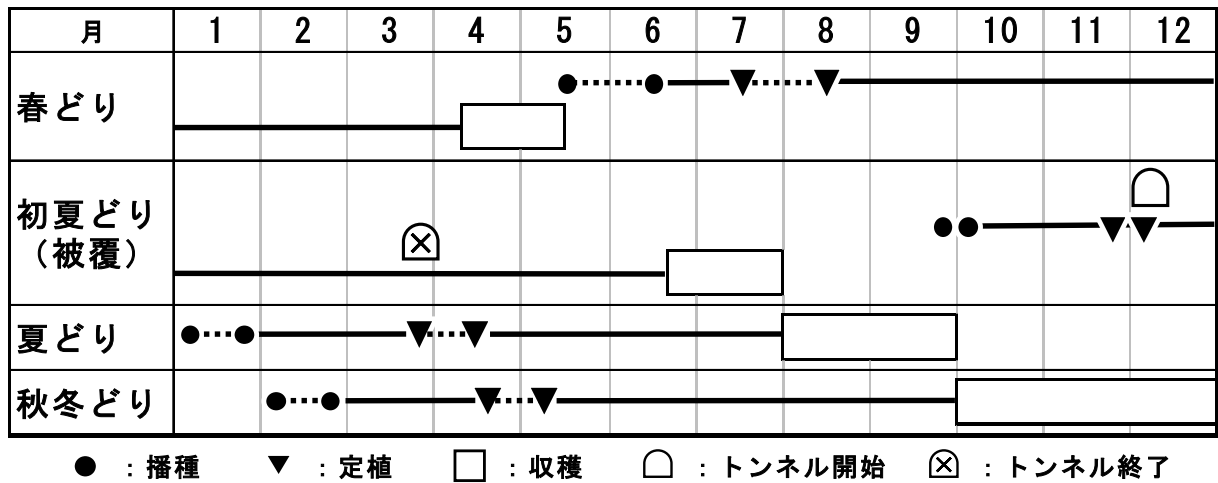


図1 根深ネギの周年作型(高冷地)

表1 根深ネギの品種特性(高冷地)

作型	品種	軟白長 (cm)	調製重 (g/本)	可販収量 (kg/10a)	播種期 (月/旬)	収穫期 (月/旬)	特徴
春どり	羽緑一本太	27.3	142	5,322	5/中～ 6/中	4/中～ 4/下	抽だいが遅く、分けつが「陽春の宴」より少ない。5月上旬には抽だいするため注意する。
	陽春の宴	27.5	199	6,752	5/中～ 6/中	4/中～ 5/中	抽だいが極めて遅く、5月中旬くらいまでの収穫が可能。「羽緑一本太」と比べ分けつが多い。
初夏どり (被覆)	初夏扇	27.0	146	5,413	9/下～ 10/上	6/下～ 7/下	分けつ、抽だいの発生がともに少なく、高冷地のトンネル栽培品種に適する。
夏どり	大地の響き	26.9	167	6,108	1/上～ 1/下	8/上～ 9/下	生育良好で、可販収量が多い。
	夏扇パワー	28.2	158	5,675	1/上～ 1/下	8/上～ 9/下	夏どりにおいて確保が難しい軟白部を確保しやすい。
秋冬どり	森の奏で	28.4	170	6,014	2/上～ 2/下	11/上～ 12/下	耐寒性が強く12月中下旬の収穫が可能。伸長は「夏扇パワー」より遅い。抽だいは早いため、冬越しさせる場合は収穫遅れに注意する。
	夏扇パワー	34.0	177	6,299	2/上～ 2/下	10/上～ 12/上	可販収量が多く、軟白長が長い。耐寒性は「森の奏で」より低いため、12月上旬までの収穫とする

軟白長・調製重・可販収量は R6 年度に収穫した数値。播種期、収穫期は R4～R6 年度から判断。

[その他]

研究課題名：根深ネギの安定的な周年出荷技術の確立

予算区分：成長戦略

研究期間：2022～2024 年度

研究担当者：岩間亮太、五味愛美、志村純子、赤池一彦、窪田浩一、志村貴大